

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 2 部門第 3 区分
【発行日】令和 5 年 6 月 14 日(2023.6.14)

【公開番号】特開 2022-22619(P2022-22619A)
【公開日】令和 4 年 2 月 7 日(2022.2.7)
【年通号数】公開公報(特許)2022-022
【出願番号】特願 2020-112291(P2020-112291)
【国際特許分類】

B 2 4 B 9/14(2006.01)

10

B 2 4 B 49/10(2006.01)

G 0 2 C 13/00(2006.01)

B 2 4 B 47/22(2006.01)

【F I】

B 2 4 B 9/14 K

B 2 4 B 49/10

G 0 2 C 13/00

B 2 4 B 47/22

【手続補正書】

20

【提出日】令和 5 年 6 月 5 日(2023.6.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

眼鏡レンズの周縁を加工具によって加工する眼鏡レンズ加工装置において、
眼鏡レンズをレンズ保持軸で保持する保持手段と、
眼鏡レンズの周縁を加工するときの第 1 保持圧で眼鏡レンズが前記レンズ保持軸によって保持された状態で眼鏡レンズの第 1 外形形状を取得する第 1 外形形状取得手段と、
眼鏡レンズが前記レンズ保持軸によって前記第 1 保持圧で保持される前に、眼鏡レンズの第 2 外形形状を取得する第 2 外形形状取得手段と、
取得された前記第 1 外形形状と前記第 2 外形形状とを比較可能に出力する出力制御手段と、

30

を備えることを特徴とする眼鏡レンズ加工装置。

【請求項 2】

請求項 1 の眼鏡レンズ加工装置において、
前記出力制御手段は、取得された前記第 1 外形形状と前記第 2 外形形状とに基づいて前記第 1 保持圧で眼鏡レンズが保持されたときの眼鏡レンズの横ズレを検出するズレ検出手段を備え、前記ズレ検出手段の検出結果を出力することを特徴とする眼鏡レンズ加工装置。

40

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 の眼鏡レンズ加工装置において、
前記レンズ保持軸で眼鏡レンズを保持するときの保持圧を変更する保持圧変更手段を備え、

前記第 2 外形形状取得手段は、前記第 1 保持圧よりも弱い第 2 保持圧で眼鏡レンズが前記レンズ保持軸によって保持された状態で眼鏡レンズの前記第 2 外形形状を取得する手段であり、

前記第 1 外形形状取得手段は、前記保持圧変更手段によって前記第 2 保持圧から前記第

50

1 保持圧に変更された状態で眼鏡レンズの前記第 1 外形形状を取得する手段である、ことを特徴とする眼鏡レンズ加工装置。

【請求項 4】

請求項 2 の眼鏡レンズ加工装置において、
眼鏡レンズの周縁を加工するための玉型データと、前記レンズ保持軸による眼鏡レンズの保持中心に対する玉型データの位置関係データと、を取得するデータ取得手段と、
前記ズレ検出手段の検出結果に基づいて前記位置関係データを補正する補正手段と、を
備え、
補正された前記位置関係データに基づいて眼鏡レンズの周縁を前記加工具によって加工
することを特徴とする眼鏡レンズ加工装置。

10

【請求項 5】

請求項 4 の眼鏡レンズ加工装置において、
前記レンズ保持軸に眼鏡レンズを保持させるために眼鏡レンズに固定された加工治具の
カップの外形形状データを記憶する記憶手段と、
前記ズレ検出手段の検出結果、前記玉型データ及び前記記憶手段に記憶された前記カッ
プの外形形状データに基づき、前記補正手段の補正結果に基づく眼鏡レンズの周縁加工を
行うか否かを判定する判定手段と、を備えることを特徴とする眼鏡レンズ加工装置。

【請求項 6】

レンズ保持軸に保持された眼鏡レンズの周縁を加工具によって加工する眼鏡レンズ加工
装置で実行される眼鏡レンズ加工装置の制御プログラムであって、
眼鏡レンズの周縁を加工するときの第 1 保持圧で眼鏡レンズが前記レンズ保持軸によっ
て保持された状態で眼鏡レンズの第 1 外形形状を取得する第 1 外形形状取得ステップと、
眼鏡レンズが前記レンズ保持軸によって前記第 1 保持圧で保持される前に、眼鏡レンズ
の第 2 外形形状を取得する第 2 外形形状取得ステップと、
取得された前記第 1 外形形状と前記第 2 外形形状とを比較可能に出力する出力制御ステ
ップと、
を眼鏡レンズ加工装置の制御ユニットに実行させることを特徴とする眼鏡レンズ加工装
置の制御プログラム。

20

30

40

50